

PBL テュートリアル の概要

教育目標

臨床医学の基本を学び、課題への取り組み、能動的学習、発表・討論を通して問題解決能力を向上させる。

学習の方法

原則、月・水曜日 1 限のシナリオを用いたコア・タイムと自学自習、金曜日 1 限の PBL レポート作成と金曜日の午後にそれらをもとにした解説・討論を行います。また、関連した知識を身につけるための講義も行います。

コア・タイム

- 1 学生は 1 グループ 7～9 名の小グループにわかれ討議を行います。
- 2 テューターと呼ばれる教員が、各グループに 1 名、配置されます。
- 3 コア・タイムは原則月・水曜日の 1 時限目です。ただし、学校行事や祝日等で変則的になる場合があるので注意してください。

コア・タイムの進め方

- 1 机上に学生証を提示します。
- 2 コア・タイムでは、毎回「シナリオ」と呼ばれる具体的な事例（症例など）が、テューターから呈示されます。
- 3 そこから自分たちで問題点や疑問点、学習項目を見つけ出して、話し合います。
- 4 教科書やタブレット等は自学自習の時間に読むこととし、コア・タイム時間内はカバンにしまっておきます。
- 5 コア・タイム終了時に、その回の学習状況の振り返りを行います。テューターからフィードバックを受けることもあります。
- 6 抽出した学習項目について、自学自習の時間を利用して次のコア・タイムまでに各自で調べ出典レポートを作成します。グループワークではありませんので、分担作業は行いません。
《出典レポートについて》
 - ① 本や雑誌の名前、何ページの何について調べたかを記載する。
 - ② 2 回目のコア・タイム開始前にテューターへ提出する。
- 7 2 回目のコア・タイムでは最初に調べてきたことを話し合い、互いに理解を深めながら問題を解決し、次の「シナリオ」へ進みます。

講義

コア・タイムにおける学習を助けるためおよびコースの到達目標を達成するため、講義を行います。コア・タイムと自学自習における知識を体系的に整理する目的があります。

PBL レポート作成と進め方

- 1 レポート作成は原則金曜日の1時限目です。ただし、学校行事や祝日等で変則的になる場合があるので注意してください。
- 2 机上に学生証を提示します。
- 3 レポートは評価対象になりますので相談したり、教科書をみて記載してはいけません。

PBL レポート解説・討論の進め方

- 1 解説・討論は原則金曜日の4時限目以降（コースによって時間数が異なります）です。ただし、学校行事や祝日等で変則的になる場合があるので注意してください。
- 2 レポート作成ではいくつかのテーマ（コースによってテーマ数が異なります）について論述形式で回答します。
- 3 午後の解説・討論は作成レポートを利用したプレゼンテーションや小グループディスカッションなど、担当教員が指定した方法で行います。

コア・タイムおよび PBL レポート作成の出席について

- 1 コア・タイムと PBL レポート作成時間は出席として同様に扱います。
- 2 遅刻・早退・無断欠席は厳禁です。
- 3 10分未満の遅刻・早退は、1/2 欠席扱いとなります。
- 4 10分以上の遅刻・早退は、欠席扱いとなります。
- 5 コア・タイムおよび PBL レポート作成時間は理由なく 1/5 (20%) 以上欠席した場合、当該試験の受験資格を失います。ただし、正当な理由がある場合や指定した補習等を行ったうえで受験資格を認めることがあります。受験資格を失った科目は「0点」となります。

例1) 1週間のコースでコア・タイムおよび PBL レポート作成時間が3回ある週の場合

1 回目のコア・タイムは定刻どおり出席 → 出席

2 回目のコア・タイムは定刻どおり出席 → 出席

PBL レポート作成時間は15分遅刻 → 欠席扱い

⇒ 1/3 (33%) の欠席 ⇒ 1/5 (20%) を上回る ⇒ 受験資格なし

※1回の遅刻が当該科目の成績を「0点」にしてしまうことがありますので注意してください。

例2) 3週間のコースでコア・タイムおよび PBL レポート作成時間が9回ある場合

9 回中1回欠席 → 1/9 (11%) の欠席 → 1/5 (20%) を下回る

⇒ 受験資格あり

9 回中2回欠席 → 2/9 (22%) の欠席 → 1/5 (20%) を上回る

⇒ 受験資格なし

- 6 コースごとに定められた試験（原則として土曜日に実施）は、出席状況にかかわらず、全員が受験してください。

※コア・タイムおよび PBL レポート作成時間を 1/5 (20%) 以上欠席し、当該試験の受験資格を失っている場合でも、コースディレクターが欠席理由を調査した結果、下記6の

「やむをえない事由」に該当すると判断した場合には出席として扱い、受験資格を認めたり欠席を補う措置を指示する場合がありますが、受験資格がないと判断された場合には試験の獲得点数にかかわらず当該科目を「0点」として取り扱います。

7 やむをえない事由による欠席・遅刻・早退について

教務課にある「授業・実習等欠席届」に記載の上、診断書等の必要書類を添付して、学生本人が (1) コースディレクター

(2) クラス担任

の順に持参し、担当教員確認欄に押印してもらい、教務課へ提出してください。

8 欠席届の持参を受けたコースディレクターは、欠席理由を調査し、学生へ欠席を補完するための措置を指示します。方法はコースディレクターに一任されています。

試験・成績・評価

1 科目（コース）ごとの評価を行います。

①コア・タイムおよび3日目の解説・討論のアクティビティは出席状況と以下の4項目について評価を行ない、成績評価の資料とします。

(1) 態度 : 課題への取り組み・関心度、基本的ルールの遵守、教科書やタブレットを机や膝の上に置かないなど) 等

(2) 自己学習内容 : 臨床医学の基本知識、問題解決能力等

(3) グループアクティビティ : 発表・討論の仕方、司会運営、板書の仕方等

(4) 小テスト : 学習課題における到達度の確認を行う

②コースごとに定められた筆記試験を受験し、獲得点数を成績評価の資料とします。

「臨床医学の基本」の習得度をはかる筆答試験で合格することを PBL テュートリアル成績評価の前提とします。

③その他コースごとにシラバスに記載されている成績評価が行われます。

PBL テュートリアルの休講措置について

1 1回目のコア・タイムが休講の場合 :

2回目のコア・タイムの時間内にまとめて実施する。60分で足りない場合は、コースディレクターとシナリオライターが相談の上、コア・タイムの時間延長も考慮する。

2 2回目のコア・タイム、週の最後の「解説・討議」や「試験」が休講の場合 :

実施日時の変更についてはコースディレクターとシナリオライターが相談の上、決定する。